

森康二 の足跡

鉛筆 | 本の線から生まれた
Animation



2018年12月9日 (日)

入場無料 / 事前申込不要 / 先着80名

会場 東京藝術大学大学院映像研究科 馬車道校舎
(みなとみらい線「馬車道駅」5、7番出口すぐ)

開場: 13:00

第1部: 13:30-15:00 上映『長靴をはいた猫』

第2部: 15:30-17:30 トークステージ『森康二の足跡を辿る』

主催: 東京藝術大学大学院映像研究科・横浜市文化観光局
協力: ANIDO・東映アニメーション

東京藝術大学



鉛筆1本の線から生まれたAnimation 森康二の足跡

日本のアニメーション世界に貢献した東京藝術大学卒業生にスポットを当てた『OPEN TRADITION』。今回はその最終回として森康二・もりやすじ(1925～1992)を取り上げる。森康二は政岡憲三のもと、日本動画株式会社でアニメーターとして活動を始め東映動画株式会社設立時、第一作の実験的短編『こねこのらくがき』、日本初の劇場長編アニメーション映画『白蛇伝』を始め、名だたる作品群に加わり小田部羊一(第1回講師)、高畑勲、宮崎駿らにも多大なる影響を与えた。日本でキャラクター・アニメーションの確立に最も貢献したクリエイターと言える。本講座では東映動画時代その指導を受けた小田部羊一氏、ひこねのりお氏(第3回講師)を迎え、当時の森の作画に関わる話を聞くほか、ご長男である森淳氏、森の出版を多数手がけるアニドウなみきたか氏、そして当時の様子を知る写真家南正時氏を迎え、既存の記録にとどまらず多方向からの視点でクリエイター森康二の姿を照らしてゆく。

『OPEN TRADITION』とは

東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻では2008年開設以来、横浜市からの受託事業の一環として公開講座を開催しています。本講座では、東京藝術大学上野校地からの卒業生が日本のアニメーション表現に残した業績にスポットを当て、現役学生との関係を再認識し、わが国のアニメーション教育における知の足跡を体系化してゆく試みを模索します。東京藝術大学の130年を超える歴史から生まれた才能が、日本のアニメーションに受け継いだ「伝統」をテーマに開催します。



Photo:大塚 康生

© 東映



日 時	2018年12月9日(日)
開場	13:00 受付にて整理券を配布いたします
第1部	13:30-15:00 上映『長靴をはいた猫』(1969年、80分、矢吹公郎 監督)
休憩	
第2部	15:30-17:30 トークステージ『森康二の足跡を辿る』
会 場	東京藝術大学大学院映像研究科 馬車道校舎 (みなとみらい線「馬車道駅」5、7番出口すぐ) 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 4-44
入 場	入場無料 / 開場 13:00 / 事前申込不要 / 先着80名 ※当日13:00より開場し、受付にて整理券を配布いたします。
T E L	045-227-6041 (平日 10:00～17:00)
U R L	http://animation.geidai.ac.jp/open2018/
twitter	geidaianim_open



トークステージ登壇者



Photo: なみきたか

小田部 羊一

1936年台北市生まれ。1955年東京藝術大学美術学部日本画科に入学、前田青邨に師事する。卒業後、東映動画株式会社へ入社。『太陽の王子ホルスの大冒険』、『長靴をはいた猫』原画、『空飛ぶうれい船』作画監督など多くの作品に関わる。『アルプスの少女ハイジ』キャラクターデザイン、作画監督、『風の谷のナウシカ』、『火垂るの墓』では監督の依頼により重要シーンの原画を担当。1985年から任天堂開発部に勤務。日本アニメーション協会会員。



森 淳

アニメーター・作画監督の森康二を父として1957年東京都に生まれる。1981年カリフォルニア大学(UCLA)映画科を卒業。『鹿鳴館』などで市川崑監督の助監督を務めた後、英国国立映画テレビ学校(NFTS)へ留学し学ぶ。その後、ロンドン、パリをベースに、ドラマ、ドキュメンタリーやCMの制作に従事する。2006年にベトナムへ活動を移し、主に日系企業のテレビCMの制作にあたった後、現在は沖縄県石垣島で島人となり、スローライフを目指している。



ひこねのりお(彦根 範夫)

1936年東京生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科卒。1959年東映動画に入社。『わんぱく王子の大蛇退治』動画、『狼少年ケン』作画監督などを務めた。1965年虫プロに移籍し『ジャングル大帝』原画チームを担当。1970年アリエ・ひこねスタジオを設立。他代表作に『どぶつ宝島』(タイトル構成・原画)、映画『ベンギンズメモリー 幸福物語』(監督)など。明治製菓のカルおじさん、ケロ太など、人気CMキャラクターを生み出す。2004年以降は世界最高齢のアニメーション制作集団「G9+1」に参加。



企画協力:なみきたか

1952年さいたま市生まれ。1968年に研究団体アニドウに参加し上映・出版活動を進める。1973年からはオープロダクションに在籍し、『アルプスの少女ハイジ』『ゼロ弾きのゴースト』などのアニメーターとして働く。同時に出版活動を始め、『世界アニメーション映画史』(1986)『小田部羊一アニメーション画集』(2008)などを発行し定評を得る。特に森康二関連の書籍は20年間で5冊を出版。研究者・コレクターとしてフィルムや原画などアニメーション資料を収集、アーカイブしている。



南 正時

1946年福井県生まれ。鉄道写真家。1967年日本初のアマチュアアニメサークル「ITAC」を名古屋で発足させ、その後Aプロ(現・シンエイ動画)で『巨人の星』、『ルパン三世』の制作。週刊誌にSLの連載を始め1971年鉄道写真家として独立。ケイブンシャの鉄道大百科シリーズなど著書多数、日本アニメーション協会会員。



企画・進行:伊藤 有亮(本学教授)

1962年東京生まれ。アニメーションディレクターVFXプロダクション、CGプロダクションを経て、1998年I.TOON Ltd.を設立、同主宰。代表作にNHK Eテレ『ニャッキ!』、『HARBOR TALE』、平井堅『キミはともだち』MV、など。日本アニメーション協会理事。